

モデル事業名	小松楼を核とした“とも＝協・共・友”のまちづくり仕組み創出事業
活動団体名	特定非営利活動法人 新居まちネット
ホームページ	http://a-machinet.org/ メール:info@a-machinet.org
所属／担当者名	特定非営利活動法人 新居まちネット 事務局 馬淵 豪
連絡先	053-594-0540 info@a-machinet.org
活動地域	静岡県湖西市新居町 新居関所周辺5地区(栄町、泉町、俵町、船町、仲町)

### ● 活動地域の概要

一湖西市新居地区は、浜名湖と太平洋面し、旧東海道の関所として栄えた地区である。対象地域となる町は、地区の中心市街地にあり、国の特別史跡・新居関所と、300年前に作られた町割がそのまま残り、江戸、明治、大正時代の建物が点在する歴史的な雰囲気のある地区である。また、280年続いている「新居手筒花火」など祭り等の活動は活発であり、良好なコミュニティが形成されてきている。

一小松楼は、明治時代に建てられた芸者置屋であり、3年間空き家になっていたが平成18年度、町の有志が持ち主の了解を得て清掃・補修を行い、現在は土日の公開、各種展示等の開催、総合学習など子どもたちの教育の場などにより、延べ700人以上が訪れる施設である。平成20年度には町が購入を決め、平成21年度には日本財団の助成を受けて改修を行う。市では、この小松楼をまちづくり交流館として指定管理者制度により、新居まちネットに管理委託している。



路地の清掃など良好なコミュニティがある一方高齢化が進む



### ● 活動地域の課題

一年々空き家、空き地が増加し、平成16年の5地区人口は1775人であったが、現在は1603人となっている。また、町の人口17,629人のうち、高齢化率は23%程度のなか当地区では、34%と高齢化も進み、さらに若年層(14歳以下)は9%コミュニティを維持することが難しい状況である。平成22年には湖西市との合併が予定され、今まで町の中心であった当地区が中心地区とはならない状況となる。

	H16年	H21年
人口	1775人	1603人
世帯数	562	568
高齢者	426人	542人
14歳以下	—	148人

### ● 活動の内容

(全体)

特定非営利活動法人新居まちネットは、平成10年に新居関所周辺5地区連携により設立された「新居関所周辺まちづくりの会」を母体として、平成22年1月に設立した歴史を活かしたまちづくりをテーマにする中間支援組織である。これまで、まちづくりの会では、関所等を訪れる来訪者にむけての看板、説明板の設置、マップづくりなどまちの歴史や文化を活かした活動を行ってきており、また、町を案内する案内人組織も立ち上がり来訪者へガイドなど積極的に行い、町の文化や歴史を発信してきた。平成22年3月、新居町が隣接する湖西市と合併することもあり、地域の担い手として活動を推進する役割を担うようNPO法人新居まちネットを設立した。新居まちネットは、小松楼まちづくり交流館の指定管理者となり、継続的に地域に根差した活動をすすめる。

(直近1年間の進捗など)

昨年の新たな公による取り組みの成果により、中間支援の担い手として、特定非営利活動法人が充足した。新居町が湖西市と合併したこともあり、今後、本まちづくりの会は存続しつつ、新居の歴史を活かしたまちづくり事業や昨年の成果を活かした事業継続はNPOを中心に行うこととしている。平成22年は、このNPO法人が日本財団の助成を受け、小松楼の耐震性の向上を目的とした大規模修繕工事を実施し、9月に「小松楼まちづくり交流館」としてオープンし、本法人が指定管理者として運営している。今後は、新居関所の文化財復元整備や新居関所前の国道の電線共同溝事業な歩道修景などの事業にも地域との間にたち意見をとりまとめながら、商業者とも連携し地域の活性化施策を検討している。



## ● 活動の成果

### ・全体

1. いつでも井戸端サロン事業の実験

(1) 対象者別(子ども・住民・高齢者・来訪者)の4つのプログラムの実施

①井戸端寺子屋事業 ②午後の縁側事業

③お月見コンサート事業 ④懐かしフィルム映写会事業

(2) 小松楼のビジターセンター機能の充実

①散策マップ・周辺地域パンフレットの設置 ②サロンの実施(午後の縁側)

2. 担い手づくりワークショップ会議の実施

特定非営利活動法人の手続きの実施

①9月静岡県NPO申請書の提出 ②12月NPO法人承認 ③H22年1月登記手続き終了

3. 歴史文化発信 ビジネスモデル創出

(1) 散策定番ルートの設定とマップの作成

①現地調査の実施⇒②資源の整理ルート設定案の検討⇒③ルート設定案モニター調査の実施⇒④散策ルートの確定(2ルート)⇒散策マップの作成(1万部)

(2) 広報・PR活動

①ホームページの立ち上げ

<地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等>

一層化別のプログラムの実施、それらを伝える通信やホームページの発信などにより、小松楼を核にまちづくりセンター的な機能を持つこと、また来訪者の情報提供などのビジターセンター的な機能を確保することができた。

一本事業で作成したマップに掲載した商店へ次回増刷の際に協賛金の協力へ依頼したところ良好な返事を得ており、それらを有料で来訪者に提供することも検討されている。

### ・直近1年間の成果など

1. 新居の地縁をいかした人づくり

一まちづくり活動の大きな課題である担い手づくりに対し、活動をより理解し支援の輪を広げていくためお年寄りや子どもが楽しめる定番プログラムの確立する。それには、本会やNPOさらには地縁による推進体制を構築することが大切であることから、そのための基礎づくり(人づくりわいわい会議)を行っている。

2. “子ども塾”の開催

一新居地域の自然資源、歴史資源をつかって体験型の子どもの向けプログラムとして実施しています。実施に当たり、「人づくりわいわい会議」により体制を構築し、新居の各種団体、県内の団体との協力を図りながら進めています。

3. “地域の茶の間”の開催

一高齢者を対象にした。ミニデーサービス。

新居地域では、自治会による「おひまち会」などによるお年寄り向けの寄り合いがみられますが、人的な問題や「週末」などという限られたサービスとなっています。小松楼交流館にて毎週、誰もが参加ができ、体や頭を動かし楽しく交流できる“地域の茶の間”を開催しています。



## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

新居まちネットは、地域の課題に積極的に取り組み、新たな公共としての役割を担う活動を目指していますが、設立して間もない法人であることから、会員数も決して多くなく、またこの新しい考え方を理解している人は多くありません。まちづくりの熱意だけでは、地域住民への理解を得ることは難しいことも実感しています。活動を支援して頂く方たちや、共に汗をかき活動する会員を確保していくために、このような組織の必要性や利点を理解してもらう努力が必要だと感じています。

### ・展望

今後の活動を継続させるために、地域を意識して、地域のニーズの高いサービスを提供していきたいと思っています。活動の成果は、参加している人数の多さではなく、参加した満足度などの定量的な評価で進めていきたいと思っています。また、今後は、これからのまちづくりを担う子ども達にも重点をおき、子どもが立ち寄り、交流できるようなサービスも検討していきたいと思っています。

